

PVVP タイムス

設立のあいさつ

平成28年11月に初代理事長として、就任した東龍知右門です。私は副理事長の森田徳忠さんとお会いして世界遺産プレアヴィヒアで、貧困地域に工芸などの産業支援が出来ないかと要請がありました。それから何度となく、カンボジア国内やプレアヴィヒア州全域を視察しました。カンボジア政府の進めるエコビレッジを中心に、農民たちが自立出来るように私たちはモノづくりを中心にケアをしていきます。子供たちは、一日一食も食べれない日々もあつたり、就職したくでも仕事先が無い、子供たちは教育を受けたくても経済的問題や家の仕事の手伝いで受けられない状態です。未だ電力、水なども普及されることもなく開発を待っています。このプレアヴィヒア州はカンボジアでも最貧困地域です。これはポルポト内戦で最後まで占領されていた州であり、世界遺産の認定を受けた時はタイからの砲撃により交戦状態になり住民たちは逃げまどいました。その住民は政府の提供したエコビレッジに移住しましたが、そして何もない状態で暮らす日々を送っています。2014年にタイと和平協定が結ばれ、やっと開発を進めれるようになりました。そんな現状を踏まえて、私たちは産業支援を基本に、このプレアヴィヒア州へ支援を行って参りたいと思います。是非とも、皆様の心温かい支援をお待ちしています。



理事長 東龍 知右門

NEWS

プレアヴィヒアモノづくり視察

理事の中山強と塚越幸枝が、カンボジアのプノンペン、シェムリアップ、コーケー、プレアヴィヒアを1月18日より8日間の視察へ訪問しました。現地政府側とのご挨拶や政府の動向により様々な文化や素材、住民との交流、生活環境などを調査しました。



プレアヴィヒア州エコビレッジ

現地の農作業や様々な仕事をしている、農民たちと交流しました。新しく出来た鳥小屋や作業宿泊所など、広大に広がる農作地や井戸水、現在までの開発状況を視察しました。政府側による、今後のプランや構想、必要と思われる素材などを確認しました。

中山 強 理事

カンボジアへの第一歩。
風と空が日本とは違う！ プノンペン・シェムリアップでの交通事情には、中々慣れるには時間がかかるだろうと思った。しかし、プレアヴィヒア、コーケーも同じだが、子供達の底知れぬ笑顔に、自然とこちらも笑顔になり元気をもらった。そして、現地の方達のはにかみながらも、人なつっこさを感じさせるところが、何か懐かしさを覚えた。都会と田舎、いろんな意味で格差はあるが、笑顔は皆同じで心根も同じであろうと思う。今回、全ての事を知り得たわけではなく、良い事だけではもちろんない。ここで支援(同じ目線で笑顔で)して行く事への責任と覚悟を痛感させられる旅となった。

理事紹介



鈴木直登 副理事長
東京會館総調理長

平成21年度東京都優秀技能者「江戸の名工」受賞。和食技術の教育、子供たちへの食育、企業の料理監修をはじめ、日本料理界の重鎮として貢献しています。



住山哲也 理事
㈱ヨシダセイコ代表取締役

社業では、ベトナムの海外研修生を長年受け入れて育成しています。各地の登山をしたり、自転車ツーリングを楽しんでいます。

中古パソコン事業

先月、現地の政府機関より子供達の教育のために、中古パソコンを支援して頂きたいと申し出がありました。これは、新潟県関川村を10月に視察した時に小中学校の授業参観や先生と交流して、子供達の教育には必要だと思ったようです。しかし、パソコンを買うような予算も無いのが現状です。そこで私たちは、こうした取り組みを応援するために、皆様より中古パソコンや現地までの送料の寄付を募りたいと思います。ただし、インターネットにつないで使うことが前提なので、出来ればwindows7以降を基準にしています。この事業は支援が行き届くまで、継続するものと致します。また2月18日にプレアヴィヒア・スラエム村にあるストリートチルドレンの孤児院を訪問しましたところ、運営されているスカリ園長先生が子供たちの将来のためにも必要なので支援をお願いしたいと申し出がありました。私たちは、中古パソコンを中心に必要サプライも検討していこうと思います。

現地情報

● 地雷・ピストルなど危険では？

この件は、いろんなところで聞かれます。「カンボジア行って大丈夫？」「地雷がまだたくさん埋まっているんじゃない？」「ピストルも売っているって聞いたけど？」現地は、そんな危険はありません。地雷も近年で、ほとんど除去や調査は終わっています。プレアヴィヒアも、ほとんど地雷除去は終わっており、一年間の地雷被害者もほとんど無くなっています。ただし貧困は、まだまだ解消されていません。

● 通貨は？

現地通貨は、リエルという名前です。100リエルが基本で、4000リエルで1ドルになります。現地では、どちらの通貨も使えます。おつりがドルとリエルが織り交じってきますので、きちんと計算しておつりを確認してください。大きなスーパーや飲食店などでも、よく間違えていることがあります。計算機を使っても間違えているので、かならず確認してください。もし違うときは店員を呼んで申し出れば大丈夫です。

プレアヴィヒア情報

昨年年末に新しいジャヤホテルが、スラエム村にオープンしました。今までは通常のホテルは、プレアヴィヒアブティックホテルしかありませんでした。少しずつ現地も観光化に向かって、投資が始まっています。しかし、まだまだ大きな投資は始まっていません。現地ツアーや様々な情報が知りたい場合は、下記の連絡先へご連絡ください。常駐スタッフはいますが、現地状況により折り返しの連絡が遅れることがありますので、ご了承ください。

発行元

NPO法人世界遺産プレアヴィヒア・モノづくりの会

住所 石川県金沢市藤江北1丁目418ハイウェステリア103

Tel/fax 076-256-5074 e-mail pvvpasia@gmail.com

<http://www.pvvp.asia/pv/>

農業支援事業

プレアヴィヒアのエコビレッジを中心に、コーケーの農地を含め未開拓農地への新規農作物を検討するために日本産の大豆や麦などを送ります。現地でも試験的に調理などをして、カンボジア料理を使って試食などをします。プレアヴィヒア州の住民は、タンパク質の必要摂取が通常の5パーセントしかありません。大豆は南部で育成される成分はタンパク質が非常に豊かなものになります。豆乳、豆腐などを食べることで、その問題をクリアできるように検討していきます。カンボジアでは豆腐料理は一般的ですが、製造過程で古来の日本の方法と同じです。東南アジアでは生食の豆腐がありません。カンボジアは農薬を使わないので、オーガニックで健康によい作物が出来ることでも有名です。すでに昨年に新潟県産のエンレイ大豆30キロ、今年1月には石川県産エンレイ大豆30キロを現地政府へ送っています。麦は今年度中に発送し、調理試験等々を終える予定です。

クメール語講座



乾杯！→**チョルモイ!**

カンボジアでは、とにかく乾杯が通例です。食事が始まってスタートからみんなで乾杯します。日本では、一回ぐらいたと思いますが、カンボジア人は何十回もみんなでグラスやビール缶を合わせて「チョルモイ！」と楽しんで呼びかけ合います。やっとなんか幸せになったこともあるのでしょうか。どこに行っても、どんな時でも全員が立ち上がって、「チョルモイ」を合唱します。お酒であっても、小さな子供たちからおじいちゃん、お母さん、ご近所さんや親戚一同が来て大宴会が行われることが、この国では日常茶飯事です。



今月の広報よりひとこと

プレアヴィヒア寺院から、2・3時間。コーケー遺跡の「ブラサット・トム」が見えます。プレアヴィヒア寺院にて体力を使い果たした私は、最後の力を振り絞って、このブラサット・トムの頂上を目指しました。爽やかな風と自然の光景に感動したものの、遺跡巡りは体力も必要だと痛感しました。次回は体調を整え、体力をつけた上で、訪問したいと思っています。

理事 井上泰仁